

## 第7章 ゼロから始めたマーチ「やりゃあできる」

岩手県・いわてレインボーマーチ

### 加藤麻衣さん



実施日：2019年7月28日 聞き手：前川直哉・杉浦郁子

実施場所：かとうまい事務所（盛岡市）

#### 【プロフィール】

1994年、岩手県盛岡市生まれ（インタビュー時24歳）。岩手大学1年の2014年2月にサークル「岩手大学LGBTs学生団体 Poi」を立ち上げ、代表として活動。当事者の居場所運営や大学祭でのサークル展示などを行う。2018年、いわてレインボーマーチを立ち上げ、代表に就任。同年9月1日に盛岡市で開催された IWATE RAINBOW MARCH 1st には160名が参加した。インタビュー後の2019年8月25日に行われた盛岡市議会議員選挙に立候補し、候補者44名中2位となる4425票を獲得し、初当選を果たしている。

### 1. 大学入学まで

#### ◆出身と家族

1994年生まれの24歳で、来月8月7日に25歳になります。岩手県盛岡市出身で、転居歴はありません。今も盛岡に住んでいます。

職業は会社員で、グラフィックデザイナーです。チラシなどのデザインをしたりもしています。現在は母と2人暮らしです。1歳下の弟がいます。東京で働いています。私が14歳の時に父が亡くなっていて、それから母1人に育てられました。母は美容師です。

岩手県立不來方高校の芸術学系コースで3年間勉強した後に、岩手大学の教育学部芸術文化課程美術・デザインコースに進学しました。専門はグラフィックデザインです。

#### ◆性的指向と性自認

高校1年生の時に初めて同性の恋人ができたんですが、まだ当時はバイセクシュアルという自認でした。岩手大学に入ってから、卒業するまではバイセクシュアルと言っていたんですが、卒業する時に「違うな、レズビアンだな」というふうに認めました。

高校3年生の時に、1歳下の男の子と7カ月ぐらい付き合ったんですが、一度も好きと思わなかったということがあったんです。あと大学4年生の時にも、バイトの後輩の男の子が告白してくれて、私はその時すごく忙しい時期だったので「卒業式が終わる頃まで、ちょっと待ってほしい」と伝えて、すこし遊んだりとかしていたんですけど、それでもやっぱり

友情以外の情が芽生えなくて。その時に「私、こんなに素敵な人を好きになれないんだっから、もうレズビアンと認めるしかない」というふうに思って、それからはバイセクシュアルではなくレズビアンと自認するようになりました。

性自認は、今は女性という自認をしています。去年、パレードをやる前までは、Xジェンダーという自認をしていたんです。でもパレードが終わった後、いくつか講座の講師依頼を受けて、そのために色々と勉強をし直していたところ、自分がXジェンダーではなくて、女性としての役割を求められるのが嫌な女性だったんだと気づき、そこからは女性という自認をしています。

高校の頃から周りがアート系の人ばかりだったので、「変なのが当たり前」というか、「むしろ変な方がいい」という空気が何となく漂っていたんです。そういう意味では、女の子が好きなんだと周りが知っても、特にいじめとかも全然なくて。「まあ、加藤だから仕方ないか」みたいな感じでした。

#### ◆岩手レインボー・ネットワークへの参加

高校を卒業する直前の2013年3月頃に、初めて岩手レインボー・ネットワークに参加しました。

本当は首都圏の大学に行きたかったんですけど、母子家庭ということもあって経済的に難しいという話になり、しぶしぶ岩手大学を選んだんです。進学が決まって「じゃあもう、ここ（岩手）でやりたいことをやろう」と考えるようにして、その1つが岩手レインボー・ネットワークに参加することでした。

その頃はまだLGBTという言葉も知らなかったと思うんですが、何かで検索して出てきたのが岩手レインボー・ネットワークで、「行ってみようかな」と勇気を出して連絡し、参加したんです。

そこで当時、岩手大学の男女共同参画推進室で働いていた山下梓さん（本冊子にインタビュー掲載）と出会い、「こんど岩手大学に入学します」と伝えたら、「大学に男女共同参画推進学生委員会というのがあるから、入ってみたらどう？」と誘って頂いたので、大学入学後に参加して、そこからジェンダーのことをやるようになりました。

それまで、社会問題への興味はあったほうだと思うんですけど、ジェンダーについては、あまり知らなかったと思います。

高校時代にセクシュアルマイノリティに関する情報に触れる機会は、あまりなかったです。岩手レインボー・ネットワークに参加するまでは、私と恋人だった人以外の、当事者の方に会ったことが全然なくて、「会ってみたい」という気持ちがあったのかもしれませんが。

岩手レインボー・ネットワークは岩手大学に限らず、岩手県の当事者やアライの人たちの集まりでした。月1回くらい学習交流会をしていて、直接大学とは関係ありません。学習交流会も大学の外でした。

最初に岩手レインボー・ネットワークに参加したときは、結構皆さん難しい話をしていたような感じがしますね。ついてくのに必死みたいところが、あった気がします。

参加者は10人いかないぐらいで、自分が最年少でした。「やっぱり最年少か」と思った

んですが、皆さん優しく接してくださいました。参加している方のセクシュアリティはバラバラでしたね。

## 2. 岩手大学での活動

### ◆男女共同参画推進学生委員会（GESCO）の活動

2013年に大学に入ってから、大学の男女共同参画推進学生委員会で活動しました。通称はGESCO（Gender Equality Students' Committee）です。組織図的には、岩手大学の男女共同参画推進室があって、その下に大学の公的機関として学生団体のGESCOがあるというイメージです。運営費もおそらく、大学から出ていました。

入学した時点でGESCOはすでにあって、活動していたのは6〜7人ぐらいですかね。そんなに数は多くなかったです。メンバーは、大々的に公募して集めたという感じではなくて、在籍メンバーが知り合いを引っ張ってきたりという感じでした。私も、山下さんに声を掛けられて参加しました。岩手レインボー・ネットワークとは、メンバーは全く重なっていませんでした。

GESCOでは、主にデートDVについての活動をしました。学生対象のアンケート調査をやったり、その調査を踏まえてミニパンフレットを作ったり。あと、NWEC（国立女性教育会館）に行って活動報告もしました。

デートDVというテーマを決めたのも、おそらく学生です。私が入った時にはすでにテーマが決まっていました。でも最初は、DVやデートDVが男女共同参画とどう関係しているのか自分では全然分かっていなくて「何でDVのことやるんだろう」みたいに思っていました。高校までジェンダーについて学んだ経験もほとんどなかったので。今は、しっかり理解しています。

印象に残っているのが、NWECでの発表の準備で学生対象のアンケートを分析していた時、「そもそもデートDVが何かというのを分かっていない学生が多くて、自分が被害者だと理解していないケースが多いんじゃないか」と思ったんですね。だからアンケートでは被害数として数字が出ているけれども、実はもっと潜在的に被害があるんじゃないか、という考えに至ったんです。それが、「ああ、確かに」という感じで。「もし、もっと啓発が進んでいくと、自分が実は加害者、被害者だということが分かって、データが変わっていくんじゃないか」と考えたことを、すごく覚えています。

今も、夜にマクドナルドで作業していたりすると、岩大生がお店にたくさんいるんです。女の子たちが集まって何を喋っているのかなと聞いていたら、「サークルの男の子の家に呼び出されて、無理やりセックスされた」とか話していて。

周りの女の子が「それはひどいよ」と言って、その男の子に電話を掛けていたんですけど、やっぱりどこか、ちょっとたしなめるみたいな感じで、強くは言えていなくて。「そういうことするの、良くないんだからね」みたいな感じの言い方しかできていなかったの、悔しいですね。本当に、日常的に起こっていることなんだなと感じます。

GESCOの活動は、割とハードでした。人数が少ない中、デートDVというテーマを扱っ

て、毎週1回は昼休みなどに集まって話し合いをしていました。もちろんお給料は出ませんでしたが、発表に行くときの旅費などは全て支給されました。

教育学部の土屋先生という方と山下さんが顧問のような形で、その方たちと一緒に色々やっていました。

#### ◆学生団体「Poi」の立ち上げ（2014年～）

GESCOの活動が中心だったのは1年生の一年間です。2年生になってからもGESCOに出入りはしていたんですけど、1年生の終わり、2014年の2月にサークル「岩手大学LGBTs学生団体Poi」を立ち上げたので、2年生からは、そちらに付きっきりという感じになりました。

1年生の間、岩手レインボー・ネットワークにも通っている中で、「同い年の当事者の人たちと喋りたい」という気持ちが出てきたのが、サークルをつくろうと考えたきっかけです。GESCOで培った組織運営力みたいなものがあって、「ちょっと自分でつくるか」ということで。でも大学に入る前から、当事者サークルのようなものをつくりたいと考えていた気がしますね。

Poiは基本的に居場所づくりということで、学生が集まって、お部屋でお喋りしたり、ご飯を食べに行ったりといった活動をしていました。並行して啓発活動もだんだん始めて、学祭で部屋を借りてパネル展示をしたりもしています。4年生の終わり頃にはパンフレットを作って、それをもとに講演会をしたりもしていました。この講演会は大学内と、盛岡駅前のアイーナという施設で1回ずつ開催しました。メンバーの中に、居場所づくりの活動をしたい人と、啓発活動をしたい人がいたので、2つの柱でやっていました。

立ち上げに5人の学生が必要だったので、中国語を一緒に取っていた大学からの友人を、数合わせのためにメンバーに入れて。最初の立ち上げの5人は当事者に限定せず、友人です。名前だけ貸して、とお願いした人もいました。でもみんな、ちゃんと活動に参加してくれました。

Poiの立ち上げメンバーになってもらう時、「セクシュアルマイノリティのサークルだ」というのは、言いました。当時はカミングアウトし慣れていなかったもので、どきどきしていましたが。でも、この人なら大丈夫だろうという人に協力してもらいました。

自分が当事者だということを、言ってなかった気もしますね。最初の頃は、全然カミングアウトしてなかったんです。GESCOの中で、カミングアウトした相手はゼロではないですけど、積極的には言っていませんでした。話題にも上らず、そんな暇がなかったというか。

Poiの立ち上げに誘った友人は、ジェンダーやセクシュアリティについて専門的な知識があったわけではないです。とりあえず、友達として何か手伝いたい、協力したいみたいな感じだったと思います。

#### ◆ポスターをつくってメンバーを集める

Poiという名前は、何かちょっと変わった名前にしたくなると決めました。大通りのガストで、立ち上げメンバーのもう1人と、あと顧問の先生とで話し合っ

最初は「その人らしさ」や「その人らしく」というような意味を込めた「〇〇ぽい」から Poi と付けたんですけど、後でメンバーの1人から「何々ぽいって、別にその人の本質を表す言葉ではないよね」と言われて。確かにそうだなと思って、じゃあその意味じゃなく、偏見をポイッと捨てるとか、そういう意味の「ぽい」にしました。

サークルを立ち上げて、じゃあメンバー募集となった時にポスターを作って、掲示板に貼ったんです。明るい時間帯に貼っているところを周りの人に見られたくなかったので、事前に掲示許可のハンコだけはもらっておいて、バイトが終わったあと夜の岩大に忍び込んで、22時半ぐらいに学内の掲示板に貼りました。ポスターの連絡先は、ヤフーメールのフリーアドレスだった気がします。自分の名前も載せていないですね。単純に、名前を載せるという知識がなかったんだと思います。

貼っているところを、大学の同級生とか、知っている人に見られるのはちょっと……という思いはあった気がしますね。「地元だから、知られるのが余計に怖い」と思うほどではなかったですが。

そのポスターを見た方、2~3人から連絡が来ました。当事者の方でしたね。ゲイの方と、Xジェンダーの方だったかな。あと、岩手レインボー・ネットワークで「サークル立ち上げました」と言ったら、その中にいた若い方が、実は以前から Twitter でちょっと繋がっていた岩大の学生の方だったということが判明して、「じゃあ入ります」となったりとか。

高校時代、岩手大学の試験がある時期から Twitter を始めていたんですけど、そこから当事者と繋がるようになっていったのは、ちょっと特記事項かもしれないです。当時 Twitter は本名ではなく、ニックネームでやっていました。

#### ◆デザインへのこだわり

Poi のチラシのデザインにはこだわりました。Poi をつくるときに、変な団体と思われたくないという思いがやっぱりあったんです。チラシだけを見た人も「ここなら何かいい感じ」と思って来てもらいたくって、そこはかなりこだわっていたところなんです。今はデザインするとき、純粹に私がやりたいからやっているという面が強いですけど、最初の頃は「変な団体と思われたくない」と思って、頑張っていましたね。

Poi の最初のチラシは私がイラストを描いています。「LGBTs 募集中」と書いていますね。学科の後輩から「絵を見て、描いたの麻衣さんだって分かりました」と言われて、「えー、こわー」と思いましたね。

やっぱりデザインができたというのが、かなり良かったというか、強かったと思います。

#### ◆Poi の活動

居場所づくりの活動は、学内でやっていましたが、他大学の学生も来ていました。例えば県立大とか、盛大とか、医大、宮古短期大学からも。インカレみたいになっていましたね。

サークル内ではみんな、自分のセクシュアリティについて隠す必要なく言っていました。皆さん、別に知り合いがいなくても、Twitter とかを見て集まってきていましたね。「行っているんですか」とメールが来て「いいですよ」とお返事して、来ていました。

Poiのミーティングをどこでやるか、場所は公開しておらず、申し込みがあった方に個別に連絡するという岩手レインボー・ネットワーク方式をとっていました。やっぱり、何かあったら怖いというのがあって。無理解による差別や暴力みたいなものが怖かったので、そこは気を付けていました。からかいに来る人がいたらどうしようとか。

岩手県内で、こうした大学サークルは Poi が初めてだと思います。県立大学の学生さんが、県立大でもつくりたいと相談に来てくれたことはありますが、まだ Poi だけなんじゃないかな。Poi はいまでも続いていて、現在（2019年）の代表が4代目です。

学祭の展示は、部屋を1室丸々借りてやりました。廊下の一番奥の部屋を借りて、風船を敷き詰めたりして。これで子どもが集まってくるんです。その風船に「疑ってみたい当たり前」を書いてもらいました。例えば「女の子は〇〇しなきゃいけないの?」とか、疑問に思っていることを書いてもらって、その風船をパンツで割ってもらったんです。常識を疑って、割ってみるというイメージですね。

あとは壁に「レズビアンとは」「トランスジェンダーとは」などの解説を掲示したり、パンフレットをみんなで作って配ったりしました。

Poi で講演会をしたこともあります。これは学祭とはまた別の日です。私が4年生の時に、「Let's びぎんプロジェクト」という、学生の活動にお金を出してくれる企画が岩大にあって、これに採択されてさっきのパンフレット作成と講演会をやりました。

#### ◆居場所づくりの活動

Poiの居場所づくりでは、大きな問題は特になかったと思います。わりと平和に進んでいきました。アウトィングのリスクもなかったと思います。グランドルールとして「サークルの外では言わない」「ここで喋ったことは、ここに置いていく」と決めていた記憶があります。これも、岩手レインボー・ネットワークの活動で習った方法です。岩手レインボー・ネットワークから学んだノウハウは大きかったですね。

Poiの居場所は、隔週くらいで図書館の奥の部屋を借りてやっていました。毎回参加しているのは4~5人でしたね。多いときで10人ぐらいです。

PoiのグループLINEは私がいたとき、最大で30人ぐらいでしたね。今は卒業生も入って40人ぐらいになっています。

今もコンタクトがある方もいるんですけど、ほとんどの方は、今何をしてるのかちょっと分からないです。

#### ◆学祭での展示

Poiの学祭の展示は3年生（2015-16年）の時に始めて、4年生でもやりました。「学祭出たいね、何かやりたいね」みたいな軽い感じだったと思います。そこまで大層な理由はないというか。

「セクシュアルマイノリティについて知ってもらいたい」という気持ちは、少しはあったのかもしれないですね。母にカミングアウトする前までは、「いつまで嘘をつき続ければいいんだろう」と、かなりストレスになっていたところもあったので。

ちょうど日本の自治体でもパートナーシップ制度が始まったりという時期ですけど、そうした動きと学祭の展示は、あまり関係ないです。もちろん、そういう世の中の情報をキャッチしていなかったわけではないんですけど、わりと疎かったというか、そういう時代の流れとは切り離して活動していました。

1年生の時、GESCOで1回展示をしていたので、その経験もあって「じゃあPoiでもやってみようかな」みたいな、そういうノリだったと思います。

展示は4~5人でやりました。準備は大変でした。ほんとに、死ぬかと思いました。

当日は、その展示の場所にいることについて、ドキドキはしていましたね。知り合いや、知り合いのお母さんが、展示している教室の前をすっと通って中を見ていた時には、「どんなふうに使われたのかな」と、ちょっと不安に思ったりしていました。でも、学内からも学外からも、当事者の人も来てくれたので、そういう出会いがあったりして楽しかった記憶があります。

当時はまだ完全にカムアウトしている状態ではなかったですが、「こういう展示をやるということは、あなたもそうなの？」という風に聞かれたことも、ゼロではなかったように思います。そうやって聞かれたら「はいそうです」と答えていました。

#### ◆岩手のジェンダー規範

Poiの活動は、メインはセクシュアルマイノリティのことですが、やっぱりジェンダーのことも割と入ってきますね。そこは分けられないと思います。

ジェンダー規範について、盛岡は岩手県内の他の地方に比べたら、まだまだ生きやすいほうだというのは感じます。もちろん都市部と比べたら、盛岡もジェンダー規範が強いほうなのかなとは思んですけど。岩手の郡部では法事や親戚の集まりとかの際、女性たちが台所にずっと付きっきりというのも当たり前です。

母は久慈出身で、たくさん親戚がいるんですが、久慈の親戚の間では本当に「結婚して子どもを産んで一人前」みたいな感じが強いです。盛岡では、そうした規範は、まだ私は強くは感じていないですね。ましだと思います。

母や親戚から「そんなことすると嫁にいけないよ」というようなことを言われたことは多々あります。特にカミングアウトする前はそんな感じでした。「女性は、とりあえず嫁にいくもんだ」という前提でしたね。

#### ◆家族へのカミングアウト

母には大学1年生の時にカミングアウトしました。Poiを立ち上げる前だったと思います。当時付き合っていた1個上の先輩の女性と、家の近くで手をつないで歩いていたら、後ろから車が近づいてきて。「何だ？」と思ったらお母さんで、「見られた」と思って。

その時は普通にバイバイと言って別れたんですけど、その後「カミングアウトするか」と考えて、後日、泣きながらカミングアウトしました。私も何か動転していたんだと思います。私が泣きながらカミングアウトして、母は「麻衣が幸せならそれでいいよ」と言ってくれたんですけど、後日、「やっぱり変だよ、病院行こうか」と言われて。

最近、テレビの取材を受けている時に判明したことなんですけど、この時の母の「病院行こうか」という声掛けは、「親として何かしてあげなきゃいけない」と思っただけだったらしいです。悪気はなかったんですが、傷付きました。

親戚も、何人かは知っています。母にアウトイングされました。どうやら母の伝え方がおかしかったようで、「自分のことを男性とっていて、女性が好き」と伝わってしまっていて、親戚の中では私がトランスジェンダーの男性だと思っている方が複数名いるようです。

母も当時は分かっていなかったのかもしれないですね。本を渡したりとかしているのに、今はもう理解していると思うんですが。

弟にはカムアウトしていません。私がメディアに出た記事も、見る機会が全然なかったと思うので、多分知らないんじゃないかなと思っています。選挙に出ることも知ってるんだか知らないんだか……。音信不通のような感じなので、生きているとは思いますが。

#### ◆Poi は自分にとっても必要な場所

立ち上げ当初は、自分が Poi をやっていることは、周りの友達には伝えていませんでした。仲の良い友達も知らなかったと思います。

文化祭に出展する時期ぐらいから、「ちょっとこういうのやるから、見に来て」という感じで、友達にも言い始めましたね。大学の卒業制作展では Poi のパンフレットを置いたりもしていたので、その時はもう確実に知れ渡っていたと思います。それまではクローゼットとまではいかないですけど、そんなに積極的には周りに言っていなかったです。先輩と付き合っていることも、知ってる人は知っていたかもしれないですけど、別に言っただけでなかったです。Poi の中では、みんな知っていました。

Poi は、自分にとっても必要な場でしたね。LGBT に関する何か嫌なことを聞いたり、嫌な経験をしたときに、Poi の場で喋ってみんなで怒ったりとか、みんなで笑い飛ばしたりとかという経験があったのが、すごく助かったというか。

写真部に入っていたんですが、私が 2 年生の新歓の時に、焼肉屋さんで同じテーブルの人に「彼女いるんだよね」と突然言われたこともあります。「はいそうです」みたいな感じで、別に困りはしなかったんですけど、そういう突然のアウトイングがあったりはして、びっくりしましたね。もちろん本人も悪気があるわけではなくて、アウトイングしてはいけないと分かっていなかった。単純に、言っただけでいいと思っただけなんですけどね。

そういうモヤモヤした経験とか、学生委員会のメンバーが、私のことを男性とっていたのかもしれないですけど、男性向けのノリ、「ウエーイ！ウエーイ！」みたいなノリで接してきて、嫌だったり困ったりとか。そういう地味なのがたくさんありましたね。怒っていいのかモヤモヤする、グレーゾーンのような経験です。

### 3. 大学卒業、いわてレインボーマーチの開始

#### ◆大学卒業と就職（2017 年～）

2017 年に大学を卒業し、最初の就職先は盛岡市内の建設会社でした。市内と決めていた



わけではなくて、偶然ですね。合同説明会で色んなブースをうろうろしていたら、たまたまおしゃれなチラシを作っている建設会社があって。話を聞いたら「グラフィックデザイナーを2名募集している」ということで、「ここなら働きたい」と入りました。4年生の5月頃、そこ1本で受けて合格したので、それ以外の就活はしていません。

その会社は1年1カ月ぐらいで辞めて、その後は男女共同参画センターで去年(2018年)の年末まで働きました。その後、2019年の1月1日付で入ったのが今の会社で、最初に入った会社の上司たちが新たに立ち上げた会社です。

県外就職は、一応考えてはいましたね。できれば県内がいいかな、と思っていた気がしますが、でもデザイナー職の求人がなくて、「やっぱりこれは県外に出るしかないのか」と思っていたところに、偶然その会社に出会った感じです。

できれば県内というのは、お金を貯めたいという理由が大きい感じでした。母とは別に仲が悪くはないので、実家で一緒に暮らして全然構わないと思っていました。

東京に行きたいという思いは、全くなかったですね。大学の時に県外に行けなかったことは、最初は不満だったんですけど、多分大学のうちに「盛岡やっぱり好きだ」みたいな感じになっていったのかな。小さい頃からずっと暮らしている場所なので愛着はありますし、私にとっては不自由がない、ちょうどいい場所というか。東京の、あの人の多さは、ちょっとしんどいです。

最初に勤めた建設会社は、260人ぐらいの中企業でしたが、ジェンダー規範の強さを感じることもありました。年に2回、全社員が一堂に会す全体会議という場があったんですが、年始の全体会議では新入社員の女性スタッフが、振り袖を着てお酒をついで回らなきゃいけないというのがある。これは駄目でしょう」と思って、言って止めさせました。

会社にイベント委員会というのがあって、主に若手メンバーで運営するんですけど、私もそこに参加していたんです。この委員会が「振り袖を着る人、着ない人」の取り仕切りをしていて、そこで私が「何かおかしいよ」と言ったら、賛同してくれる人が1人、2人いて、止めることになりました。多分、今もやってないと思います。当時は、猛反発を食らいましたが、特に女性スタッフからの風当たりが強かったですね。「これまでやってきたんだから、やらなきゃ駄目だよ」とか「お給料もらってるんだから」とか……。「その分でもらってないから」と思っていましたけど。

会社を辞めた原因は、このこととは全然関係ないです。

#### ◆いわてレインボーマーチの立ち上げ(2018年)

社会人1年目の冬、2018年2月26日に「いわてレインボーマーチ」を旗揚げしました。私が言い出しっぺなので、自動的に代表になりました。

大学時代から、プライドパレードの存在は知っていました。Poiの先輩がTRP(TOKYO RAINBOW PRIDE)、TRPと言っているのを聞いて、「そういうのあるんだ」という感じで。当時はそれほど関心がなかったのですが、パレードという存在を何となく知っていて、「いつか盛岡、岩手でもやりたいな」というのは、学生の頃から考えていました。

社会人になって1年目の冬に、「5年後ぐらいにできたらいいな」という話を大学の学科

時代の友人にしたら、「今年やっちゃいなよ」という話になっちゃったんです。最初は「は？」みたいな感じだったんですけど、あれよあれよという間にその年（2018年）にやることになりました。背中を押されて始まった感じです。

青森レインボーパレード(本冊子にインタビュー掲載)は2014年に始まっていましたが、当時の私は、青森のパレードもあまり認知していなかったです。いわてレインボーマーチを立ち上げた後、「ちょっと勉強しに行こう」ということで、2018年のTRPに参加して、その後に青森のレインボーパレードに参加したのが初めてです。

それまではパレードがどういう雰囲気かも、全然知らなかったですね。映画のワンシーンとかで観ていたぐらいでした。

パレードは、市民運動の花形というイメージですかね。盛岡で開催したかったのは、単純にやりたかった。「懂れ」というのもある意味、適切な表現だと思います。

やっぱり地方にいと、LGBTはすごく遠い存在というか、「東京にいる人たちでしょ」みたいな雰囲気があるんです。レインボーマーチをやることで「実際は身近にいるんだよ」と伝えたかったという気持ちは、確かにあったと思います。

#### ◆レインボーマーチの準備

メンバーが集まって、「さあ、今日から活動開始」となったのが、2018年2月26日、旗揚げの日ですね。最初は私と、Poiのメンバー2人と、私の友人でジェンダーに関心のある2人の、計5人で始めました。

「いわてレインボーマーチ」という名前も、最初は決まっていなかったです。メンバーで集まって、何にする？と話し合っ。パレードにするか、マーチにするか、プライドにするか。「カラフルマーチ」とか「いろいろマーチ」とかの案が出て最終的に「いわてレインボーマーチ」に決まりました。

日付やコースを決めたりとかも、行き当たりばったりな感じでした。初めの頃はSNSの「いわてレインボーマーチ」のアカウントで、国際女性デーの周知をしたりもしていますね。最初にやったのはみんなでピクニックに行こうというイベントで、他にもLGBTの映画をみんなで見に行くイベントもしました。レインボーマーチという団体を周知させるために情報発信の回数を増やそうと、イベントをやっている感じですね。

結構早い段階でTシャツも作っています。いわてレインボーマーチのスローガン「MARCH THIS WAY」は、「この道を進んで行く」という意味で、Tシャツにもデザインしました。

ゴールデンウィークにTRPに参加したあと、すぐにIDAHOのイベントを、岩手レインボー・ネットワークとコラボして開催しました。マーチのルートを考えたり、通帳を作ったり、告知用の名刺サイズのカードを作ったのもこの時期です。

そのあと青森のパレードに参加して、6月30日にはプライド月間を記念して、レインボーベールを作るイベントをしています。この時は16名が参加していますね。これらのイベントを全て、SNSで発信していました。イベントはレインボーマーチを周知するためにやっていた面が強いのですが、結果的に居場所づくりにもなっていましたね。

いわてレインボーマーチのメンバーは女性が多いです。今はトランス女性もメンバーにいます。マーチのような可視化の活動に男性が少なく、女性が多いのは、地方と呼ばれる地域の特徴かもしれないですね。

色々なイベントに参加したりしつつ、夏ごろにはマーチの準備が本格的に始まって、9月1日というマーチの日付も発表しました。実際に日付を決めたのは、もっと早い時期だったと思います。9月1日という日付は、子どもたちの自殺が多い日ということで、希望を持ってもらいたいという思いを込めて設定した部分もあります。

#### ◆ルートの決定

1年目（2018年）のルートは、岩手公園に集合して、大通りを突っ切って、MOSSビルのある通りを通って、菜園通りを突っ切って、石垣にぶつかったら曲がって、公園にまた入るといふルートです。今年（2019年）もこのルートです<sup>1</sup>。全部で1.6kmくらいですね。

コースを決める時には、車いすの人も歩きやすいようにということは考えていました。本当は自分たちで車いすをレンタルして確認したかったのですが、ちょっと余裕がなくてそれは実現できなかった。でも、結果的に歩きやすいような感じでした。

大通りは通りたいと思っていたので、最初はめちゃくちゃ長いコースを考えていたんです。岩手公園を出たら中央通りのほうに行って、駅のほうまで歩いて行って、大通りを戻って、というルートを考えていたんですけど。そしたら全国のパレードを撮影している秋山理央さんに「それ、長いよ」と言われて。それで短縮バージョンにしたら、ちょうど良かったんです。1.6キロで、マーチで歩いて45分ぐらい。もし最初のルートを歩いていたなら1時間半ぐらいかかって、クタクタだったと思います。ニューヨークのパレードにも行ったんですけど、すさまじく長かったです。1時間半ぐらい歩いたんじゃないかな。

#### ◆費用と報告書

1年目の費用は寄付で集めました。今年（2019年）は助成金を申し込んで30万円をゲットしているんですが、去年は本当にゼロからでした。寄付はインターネットで呼び掛けて、20万円くらい集まりました。自分たちの持ち出しは、あまりなくて済みました。クラウドファンディングではなく、SNSなどで告知して、基本的には知り合いの方が寄付してくださった感じですね。

フライヤーや当日の配布物のほか、横断幕を作るのにもお金がかかりました。動画撮影とカメラマンの方をお願いしたので、その人たちの人件費も。あとは、手話通訳の方をお願いしました。機材は、お知り合いの方からお借りしました。車も使ってサウンドカーを出しました。

「いわてレインボーマーチ」は報告書をみんなで作って、そこに収支決算を載せています。報告書は、寄付を下された人たちにもお送りしました。報告書をきちんと作ったりするのは、

---

<sup>1</sup> 2019年10月12日開催の「IWATE RAINBOW MARCH 2nd」は台風19号の影響によりルートの行進は実施されなかったが、交流会に70名以上が参加した。

GESCO や Poi で鍛えられたからだだと思います。山下さんも「いわてレインボーマーチ」のアドバイザー的な感じで関わってくれていました。報告書に「成果と課題」の項目があるのは、山下さんのアドバイスです。

#### ◆県内を中心に 160 人が集まる

1 回目の参加者は 160 人でした。100 人来たら万々歳だねと話していたので、それを大きく上回って良かったです。

1 年目のマーチの課題は、チラシが完成したのが 1 カ月前で周知期間が足りず、団体としても立ち上げて半年しか経っていないで、認知度が低かった点ですかね。それでも 160 人の方が来てくださったのは、Twitter の力が強かったです。200 回ぐらいリツイートされたのかな。LGBT コミュニティは、Twitter が強いと感じますね。

事前に SNS で URL を貼って、できるだけ事前に参加申し込みをお願いしました。名前は要らないけど、1 年目でどのくらいの規模になるか私たちも予想できなかったのも、何人ぐらい来るかを把握しておきたかったんです。あと、アフターパーティーの申し込みも兼ねていました。

参加申し込みは Google フォームを使って、そこでミニアンケートも取りました。ミニアンケートの回答結果は、参加者の 4 分の 3 は県内在住者、55% は県内出身者です。

いろんな世代の方がいました。年齢のアンケートを取っていないので何とも言えないんですけど、ぱっと見た感じでは、小学生の子どもたちから 50~60 代ぐらいまで、幅広い世代の方が参加してくださいました。

いわてレインボーマーチの SNS アカウントは、Facebook、インスタグラム、Twitter の 3 種類あるんですけど、やっぱり Twitter のフォロワー数が一番多くて、400 人ぐらいいます。インスタが 187 フォロワーで、Facebook は 307 人がいいねしていて、334 人がフォロワー中です。

マーチでは写真 NG ゾーンをつくって、そこ以外は基本的に写真に写ってもいいということにしていました。報告書の写真も、NG ゾーン以外の写真を使っています。写真 NG ゾーンをつくるというのは、他のパレードから学んだ手法です。

#### ◆メディアの取材

Poi の時代からメディアとの繋がりがあったので、マーチにも親しい記者さんに取材に来てもらいました。

Poi の頃も、2~3 回は取材を受けています。取材も多くなってきて「もうオープンでいいや」と思ってからは、顔出しで取材を受けていました。それで知り合いから何か言われたりとかは、特になかったですね。

ただマーチをやった後に、母がお客さんか親戚かにマックに呼び出されて、「最近、お客さん減ってない？大丈夫？ 娘がああいうことやったから、影響受けてない？」みたいな話をされたとは聞きました。

メディアに記事が出ることで、「こういう人がいるんだよ」と知っている人が増えたのは

良いことだなと思っているので、取材には協力しています。知るきっかけを、たくさんつくっていったら良いのかなと思って。

#### ◆レインボーマーチの意義

パレードのノウハウは、ほぼゼロでした。東京や青森のパレードに参加したくらいで。

周りに色々なことをできる人がいたのは大きいですね。自分が LGBT のイベントに限らず、アート系のイベントとか、色々なところに顔を出して、そういう場所で出会った人たちとつながっていたので。

1年目は大変だったんですけど、やりゃあできるというふうに思いました。開会式の時に「できちゃいました」と言ったら、皆さんも「あはは」みたいな感じでした。

マーチでは知り合いの方々が来てくれて、沿道から手を振ってくださったりもしました。参加者の感想で、「今まで鎖に縛られたような感じがしていたけど、それが解けた」とか、「生きていて良かった」といったことを仰ってくださった方もいました。参加した方の、本人のエンパワーメントにはなっていると思います。マーチに参加していた人で、他の人と話をする際、自分の当事者性を出さずに「こういうのがあったんだってよ」というふうに、会話をするきっかけになったという方もいました。

新聞とかでもたくさん報道されたので、盛岡市や北上市から、アドバイスを求められるようにもなりました。盛岡市で今年（2019年）の6月に条例を作っていたんですが、その時にアドバイザーとして意見交換会に呼ばれたりもしました。

いわてレインボーマーチの目的としては、まずは地元が多様な性の人たちがいると知ってほしいということと、あとはやっぱり、参加してくれる人のエンパワーメントがメインかなと考えています。

「まず、顔を出せる人、外に出られる人がやっていこうぜ」という感じで、その人たちがマーチすることで、まだ顔出しできない人も少しは社会で生きやすくなるんじゃないかと思っています。出たくない人が出ないという選択をすることは、当然尊重されるべきなんです。出られない人に合わせることで、外に出たい人まで顔を出せなくなる、というのも少し違うかな……と思うので。もちろん、「出たくない」と「出られない」も、また別の話だとは思いますが。

マーチに対する批判は、私の耳には入ってきていないですね。皆さん参加して本当に良かったという声が、私の耳には届いています。

マーチは今後も続ける予定です。メンバーとも、最低でも5回はやろうというふうに言っています。無限にやるとなると、私たちもちょっと大変なので、まず5回はやろうとなっているのですが、多分5回以上やると思います。

#### ◆盛岡市議選への出馬

今年（2019年）の8月に行われる盛岡市議会議員選挙に立候補を予定しています。いつかは政治にチャレンジしたいと思っていて、社会人1年目の冬ぐらいには周りの人にも話していたので、その頃からは確実に考えてはいたんですが、こんなに早くなるとは思ってい

なかったです<sup>2</sup>。

早くても4年後の選挙、自分が29歳になって、マーチの5年目が終わってからチャレンジするタイミングなのかな、と思っていたりもしたんです。別にそれでマーチを5年と言っていたわけではないですけど。または、自分が50代、60代になってからかな、とか。

ただ今年の6月、初めて盛岡市議会の定例会を傍聴した時に、議員38人中女性が6人しかいないということと、62歳という平均年齢の高さにショックを受けたんです。質疑を傍聴していて、「若者の声が議会に届いていない、私が市議会に届けたい」と思いました。

あと、自殺の問題ですね。自分も過去に自殺念慮を抱いていたことがありますし、今年も自殺の現場に居合わせたことがあるので、全く他人事ではないんです。岩手県は自殺率が高いので、早く手を打たなければという思いがあります。

自分が自殺を考えていたのは、大学2～3年生の頃だったと思います。いま死にたいというわけではなくて、この先の人生が見えないという不安から、「長くは生きたくないな」という結論に至っていました。でも活動をしていくうちに、「もうちょっと頑張ってみるか」という気持ちになっていきました。

選挙について、周りの人からマーチを始めた時みたいに、「チャレンジしてみな」と背中を押されたということもあります。背中を押されたのと、私もやりたいという気持ちがあったので、マッチングしたという感じです。

出馬表明を報じた『毎日新聞』の記事にはもう「レズビアン当事者」と書かれていますし、マーチのことについても記事で触れてもらっています。選挙の中でも場面によっては、自分のセクシュアリティについて触れることもあると思います。

選挙ポスターにレインボーを入れるかは、少し迷っていた時期もありました。「LGBTというテーマを、政策のネタとして軽く扱っている人に見えるのでは」という声も見聞きしたことがあるので。でも今は自分なりに考えて、「そういう意見もあるけど、私は純粋に、多様性の象徴として使いたい」と考えるようになっていきます。レインボーマーチをやった私がレインボーを使わないほうが、逆に不自然かなと思うので。

#### 4. 活動の評価と課題など

##### ◆東北の特徴、震災との関係

活動する中で、東北という地域性を意識したことは、特にはないですね。「私が暮らしている場所だから、ここで活動する」という感じです。

ただ他の地方の活動と比べると、東北特有の特徴はあると思います。西日本の人と比べると、「やっぱり東北の人ってまじめなのかな」と感じることも多いです。西の人と交流すると、「すごく明るいな」と思ったりして、何か気質が違うとは感じます。良いとか悪いとかではなくて、ですが。

<sup>2</sup> インタビュー後の2019年8月25日に行われた盛岡市議会議員選挙に立候補し、候補者44名中2位の4425票を獲得し初当選を果たした。

岩手をはじめ、東北の県は面積が大きいので、コミュニティが孤立するというか、当事者個人が孤立するということは、強く感じます。孤立しがちな環境、土地だというのはありますね。

自分の活動と東日本大震災は、直接的には関係ないと思うのですが、岩手レインボー・ネットワークが震災を機に立ち上がったということを考えると、間接的に震災は関わっていると思います。岩手レインボー・ネットワークに参加したから、自分のこれまでの活動があったのかなと思うので。そういう意味では、かなり間接的に関わっているのかな、と思いますね。

#### ◆活動の評価

これまでやってきた活動で、当事者のエンパワーメントというか、皆さんの力を引き出すような活動はできているのかな、というふうには思っています。

例えば岩大のPoiをつくった時も「Poiがあったから岩大に来ました」という後輩がいてくれたりとか、「Poiに参加することで、もやもやが晴れた」といった声を聞いてきたので、誰かの人生の中で、何かしらのターニングポイントはつくれているのかな、という気はしています。

ターゲットは特に若者に絞っているわけではなくて、どなたでも、という感じです。ただ若者の自殺率の高さは、本当にこのままではまずいと思っています。

やっぱりネット社会で、SNSとか狭い世界に生きているのも、一つの原因なのかなと思う時があります。私も色んな人と出会って世界を広げていった結果、生きやすくなっているというところもあるんです。学校とお家とか、狭い世界だけだと本当に生きづらいのかな、ということは感じます。

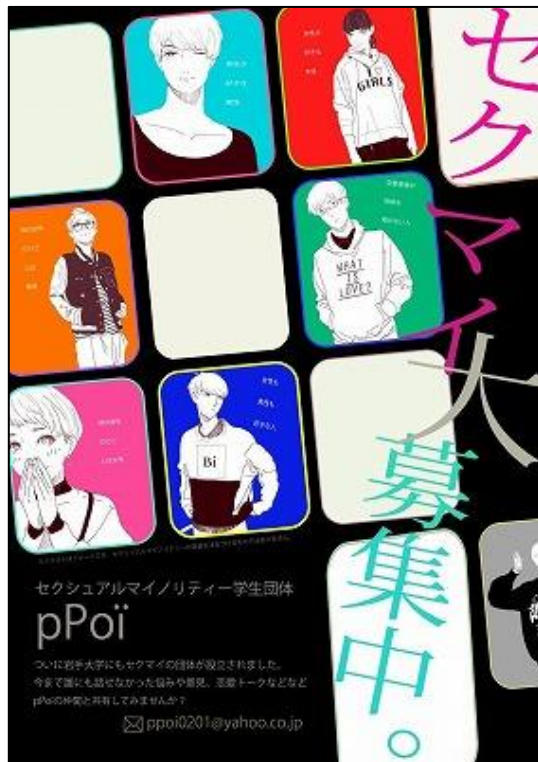
#### ◆活動の課題とこれから

活動してきたの課題は、あまり感じていないかもしれないですね。社会が変わっていく節目というか、追い風が吹いているタイミングに活動できたという印象です。これまで、いろんな方が自分たちの活動を支援してくださってきているので、課題に直面したという感じがあまりないのかもしれないです。

先ほどお話した通り、自分自身が将来に希望を見出せていなかった時期もあるので、活動することで自分も救われたというのは、本当にそうだと思います。もちろん活動をしていて大変なこともありますけど、やりがいがあるので。

今後については、レインボーマーチは、とりあえず5年は続けたいですし、やっていく中で進化させていきたいですね。

市議に当選したら、市民活動を続けつつ、活動で得た経験や皆さんの声というのを、ちゃんと政治のほうにフィードバックしていけたらいいのかなと考えています。そうすることによって、社会が変わっていくんじゃないかと思っています。



「岩手大学LGBTs学生団体 Poi」の募集ポスター（左）と2019年の「IWATE RAINBOW MARCH 2nd」ポスター。どちらも加藤さん自身がデザインした（加藤さん提供）。